

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790500037		
法人名	医療法人社団慈泉会		
事業所名	グループホーム南湖 1フロア		
所在地	福島県白河市関辺引目橋33		
自己評価作成日	令和元年11月16日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 福島県介護支援専門員協会		
所在地	福島県郡山市新屋敷一丁目166番 SビルB号		
訪問調査日	令和元年12月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域交流で小学校の運動会や、関山の山開きなどに参加したり、避難訓練に地元の方々や消防団の方が参加し協力してくれています。又家族との交流を密にして意見が言いやすい環境づくりを行っている。その中で家族会では春はホテルで総会や懇親会を行い、秋はデイケアの場所で懇親会や勉強会を行ったりと家族との交流を深めている。市役所と連携し、認知症サポーター養成講座や安心メイトの受け入れなど認知症の普及に努めています。利用者の持っている力を生かして役割を持って生活ができるように日常の多くの場面で一緒に料理などの活動を行っている。開所して9年目となり、利用者の状態も変化してくる中で、その方にあった生活、支援の仕方を話し合いながら少しでも安心して生活ができるように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の表情は皆穏やかで笑顔にあふれていた。職員がさりげなく声をかけたり、きめ細やかな観察を通して、必要な支援を行っていた。職員間の情報共有や意見の交換も盛んであり、互いによく話し合っておりより良いケアを目指していた。開設から10年が経過し、利用者の身体状況も変化してきているが、限られた人員で、施設環境の中で最善を目指そうとしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	GHの理念について年度初めに勉強会を行っている。ミーティングや話し合いの場で利用者の支援を考えるとときに理念を振り返れるように玄関前に掲示していつでも確認できるようにしている。	実践の中で理念を具体的にどう展開しているかを述べるなど、職員一人ひとりが具体的に動いていた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	敬老会や運動会など地域の行事があった際には出来るだけ参加したり、町内会の回覧板を回したり、近くのスーパーに買い物と一緒にいくなど交流を図っている。	自己評価に記載されているほかにも、敷地内の関連施設との春の合同訓練には、消防や地域住民の参加を得て、避難誘導訓練を実施する中で、車いすの操作法や利用者に対する理解を深める機会としている	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者は認知症サポーター養成講座や安心メイトの講習会、交流体験等で事業所で受け入れをしている。また、突撃研修で他GHIに勉強会を行ったり、実践を多くの人に伝える事で認知症の理解を深めてもらう活動を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では利用者の生活の様子をスライドを使って紹介したり、グループホームの現状を報告し、話あっている。合同意見交換会では認知症やGHの理解を深める為の勉強会を行い、参加者のグループホームへの理解を深めている。	定期的開催されている運営推進会議の場で、ホームでの様子を数多くのスライドで紹介し、日頃の様子を報告するとともに意見を求めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の認知症サポーター養成講座の講師や安心メイトの講義、交流体験の受け入れや介護相談員の受け入れをしたり、運営推進会議の委員を通して信頼関係を築いている。	白河市の依頼で、認知症サポーター養成講座修了者を対象とした研修の「安心メイト」の交流体験施設としては、市内唯一のグループホームであるとのことであった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングやカンファレンスで身体拘束、不適切ケアにあたらぬか確認をしている。日中は玄関は施錠せずに、外に出たい利用者がいたら一緒に付き添うなど拘束をしない取り組みをしている。	現在は、外に出たいという利用者はいないが、以前入居していた方には、何度も一緒に行動し、本人の希望を聞いて、玄関先に、本人が休めるいすを設置し、そこへ日に何十回も自由に行けるようにし、目配りと希望時は同行できる対応をしたと聞いた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	突撃研修を利用し虐待について学んだり、勉強会を行って身体拘束を含めて何が虐待にあたるかなど内容についても職員に伝えたり話し合いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員には利用者の中で成年後見制度を活用している方がいる為一通りの説明は行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学時や契約の際に不安や疑問について話し合っている。入居後も利用者の現状を伝え、不安な気持ちの解消に努めている。解約の際も十分に話し合いをして納得してもらえるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にどのスタッフでも日頃の様子を報告できるようにしている。スタッフではわからないことは後日管理者から連絡し、気軽に会話ができる関係作りを行っている。家族会を年2回開催し、家族と職員の交流が深まるよう機会を作り意見が通しやすい環境を作っている。	日頃より利用者本人と職員は、気軽に声をかけたり相談できる関係を築いている。また年に2回の家族会の場も利用しながら、意見を聞く場を設け、運営に反映できるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催する全体ミーティングやフロアミーティング、毎日の申し送りなどを利用し、職員の意見や要望が聞ける機会を設けている。日常の中でもその都度管理者と話す機会を作っている。	職員は、管理者や主任に何時でも意見や疑問を投げかけることができる。また今年度から法人で実施している人事評価システムに関して、職員の意見を聞き、法人へ伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年度より人事考課制度を導入し、定期的に自己評価や面談、調整会議を行い、職員の能力に合わせた給与水準の適正化を図っている。シフトでは希望休以外でもできるだけそれぞれの意向に沿えるように配慮をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体とホーム内で毎月勉強会を行い、職員の知識と技術の向上に努めている。又GH協議会が開催する研修や各種研修にも職員ができるだけ参加できるように取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福島県GH協議会の会議、研修会を通して他の事業所との交流を行っている。管理者は県南地区の協議会の理事を務め突撃研修で他GHで勉強会を行うなど県内事業所全体の質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談時から本人家族と話し合いを重ね本人が本当に望む事、家族が望む事、今不安に思う事等を話し合いながら一つ一つ確認し対応。入居されてからもこまめに話し合いをしながら不安を軽減し安心していただけるよう心掛けている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントを行う段階で家族からの不安や要望を聞き取り些細な事でもこまめに対応を行うことで話しやすい環境作り、気軽に話し合えるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントやモニタリングを行いながら今何を必要としているのか、何を悩みどのような支援を望んでいるのかを考慮し、必要なサービスを視野に入れ話し合いを行い対応できるよう心掛けている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今まで自宅で過ごされてきた生活のスタイルがあるため本人の生活を損なうことなく本人のペースに合わせた暮らしを提供。互いの信頼関係を築き上げるよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	安心して生活ができるよう家族と話し合いを重ね情報を得ながら支援方法を検討、必要に応じては家族の行事に合わせての外出を支援し自宅にいた時のように家族みんなで団欒ができるよう支援している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけの理容師さんがホームに来て散髪をして頂いたり近所のパーマ屋さんにも出かけている。またかかりつけ病院の受診を継続し対応、またほぼ毎日翌日の食材購入の為近所のスーパーへスタッフと一緒に買い物に出かけ以前住んでいた近所の方や知人に会い話す事もある	かかりつけの美容院で髪を染めパーマをかけている方も居たし、2月のだるま市にはなじみの店に毎年利用者が出かけている。人も多く心配であるが、地域の行事として習慣を尊重し、実現できるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の個性を考慮し食事の準備を一緒に行って頂いている。またテレビの番組を録画することで好きな番組を楽しんで頂けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後相談事などがあれば必要に応じて対応している。また気軽にホームに来て頂き相談事や近況を伺いながら今まで築いてきた関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出会いの時だけでなく、どんな生活がしたいのか、希望は何なのかを把握することに努めている。改めて丁寧な表現で聞く「もう何もない」となかなか希望を聞くことができないので、生活の中で世間話をするように楽しい雰囲気を作り伺っている。	よく観察し、話がうまくできない方であっても表情や全体的な雰囲気からその方の意向をつかみ、対応している。また選ぶことが困難になってきた方へは質問の仕方を少しずつ変えながら、意向を引き出している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	例えば嗜好品について摂取しない事が続いた際、ご家族に入居前や若い時の好みを伺い提供したり、自分で生活していた時の癖や傾向を聞きホームでの生活に生かせるようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一緒に生活をしていく中で利用者のその時の状態を察知し、時に希望を聞いたり、不安があれば安心できるような言葉をかけたりしている。1日の中でも変動する体調や気分、意欲を見極め今はどんな事ができるか、何をしたいのか自分らしく生活できるよう心掛けている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常にいつでも見られるところにケアプランを置きどのような支援が必要なのかスタッフ皆が把握できるようにしている。小さな課題でも、利用者のよりよい生活を目指し、必要機関と連携を密にし最良の支援を利用者が受けられるよう情報を共有している	利用者の変化や、アクシデント発生の際には適宜、職員間で情報交換及び意見交換をしながら、適切なケアを導き出している。しかし記録としては結果しか記載されていない。	適切なケアを見つけるまでの試行錯誤のプロセスが気づきや学びにつながる。さらには「記録がない=実施していない」とされる恐れもある。きちんと記録として残してほしい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子、言葉など必要な箇所を記録に残している。また、気づいた事、支援の方法をスタッフ同士話し合いカンファレンスとしてスタッフ間で共有出来ている。毎月開かれるフロアミーティングの場でも利用者それぞれの現状、これからの支援について検討し再確認している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者本人だけでなくそのご家族の思いにも寄り添っていく事も重要だと考えている。必要とされている事は何なのか、できる事、できない事は何なのか、出来ないなら他にどのような方法があるのかを一緒に考えより良い生活を目指している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の今までの生活の中で利用してきた地域の様々な資源を、家族や本人から聞き、継続してその中で生活していけるよう調整している。豊かな暮らしとは何なのか、本人らしいとは何なのか常にアンテナを張り、情報を仕入れ、笑顔が自然と出るような楽しい生活を目指している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居する際、本人や家族の希望を聞きながらかかりつけ医を決めている。医師には病状だけでなくホームでの生活の様子を伝えることで事業所に対する理解を深めてもらい本人に合った医療を支援してもらっている。	隣のクリニック以外がかかりつけ医の場合には、月に1度職員同行で受診し、緊急の対応が必要であれば家族へ電話をする。それ以外は面会時や定期的な文書発送時に報告をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活の様子をこまめに記録に残し体調の変化や気づきなどあれば状態観察を行うと共にスタッフ間で申し送りや日誌を共有し、連携看護師に相談することで助言や指示を受け病院受診などにつなげている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時かかりつけ医からの紹介状と情報提供書を持参しスタッフ同行し受診している。退院の際も家族と共に病院に出向き主治医に話を聞き、退院後の注意点、今後の対応など確認し退院後のケアが適切に行えるようスタッフ間でも情報の共有を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居される際ターミナルケアについて説明をし同意を得ている。終末期になった場合再度、家族や地域の資源を加え話し合いながら状態を考慮し、方向性を決めている。本人や家族のその時の思いや葛藤に寄り添い本人らしい最期を迎えられるようスタッフみんなで努めている	現在も看取りケアを実施中の方が一人いた。クリニック閉院時には地域の往診ができる医師の協力を得ている。看取りの途中で家族が揺らいだ際には医師との面談を始め、納得できるように関わっていた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフ間の緊急連絡網を活用し急変時や事故発生時は迅速に連絡、情報共有できる体制を整えている。また、ホームにAED設置しており必要時の使用や緊急時の対応マニュアルが常に常備されている。スタッフは全員救命救急講習を受講している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方々の協力を得ながら避難訓練を実施している。また、同敷地内の事業所と協力し夜間想定避難訓練実施や緊急時連絡網も活用している。スタッフ間では災害用伝言板の活用など災害、地震、水害想定でこまめに訓練を行っている。	様々な災害や時間の想定での訓練が実施できている。また自ホームにとどまらず法人関連施設とも合同訓練を実施していた。災害時の食品は法人一元管理であるが、先日の台風時にも確認の連絡が入った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の性格を把握し、尊厳やプライバシーを損ねないよう目線を合わせて対応につとめている。利用者の気持ちに寄り添いながら安心してもらえるよう対応している。	利用者の態度からトイレのサインを読み取り、さりげない誘導をしていることが確認できた。一人一人の名前を呼び掛けながら、話をしていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者にわかりやすく質問し、決定が難しい方には、決定できるよう助言したりしている。何がしたいのか、何が欲しいものはないか、どんなものが良いのか、好みに合っているのか確かめながら自己決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせて生活支援している。余暇時間もお手伝いをしたり、新聞やテレビを観たり、自室で休息したり、スタッフと会話を楽しまれたり本人の生活スタイルに合わせた支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類選びは本人が何を着たいのか選んでもらっている。選ぶのが困難な方には選択肢を設けて選んでもらっている。衣類購入も本人の希望に沿って行っている。また希望にて理容室に行き、毛染めや散髪をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に買い物へ行き、食事の準備や片付けまで一緒に行っている。誕生会を開催し、利用者を皆で祝ったりと楽しんでいただいている。毎日のメニューには季節の野菜を取り入れて季節を感じ楽しんでいただいている。	胃瘻の方に対して練りウニとウナギのたれを用いて食欲をうながし、経口摂取による食事が可能となった例がある。また、食事の間も和やかに話し合う姿が見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の体調や嗜好などを考慮しながら食事を提供している。また食事の摂取量が少ない方や栄養面で課題がある方は栄養のバランスや本人の食べやすい形状にし提供している。むせこみ見られる利用者もいるため食事形体を考慮し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後に口腔ケアを行っている。義歯は取り外し歯ブラシで残差物を取り除いた後装着。毎晩就寝前に義歯を預かりポリドント洗浄を行っている。また自力で口腔ケアが困難な方はスタッフが口腔内を口腔スポンジでケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の訴えのできる利用者はできる限り綿パンツにパットを使用し、訴えのできない利用者は時間や時間を見ながら排泄を行い排泄の有無を記録に残している。訴え時にはトイレ誘導し利用者の排泄パターンを把握するようにしている。	入居時、リハビリパンツを使用していた方の排泄状況を確認し、布パンツに変えることができた。また、動作や視線から排泄のサインを読み取り、ケアできている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の利用者には、朝牛乳を提供したり食事やおやつ時にヨーグルトを提供し排便の確認をしている。また一人一人の体調を考慮し下剤の調整を行っている。食事のメニューにも食物繊維を摂取できるよう作成している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は毎日午後に行っており、本人の希望時間帯に入浴できるように配慮している。体調により入浴できない利用者には清拭を行い衣類の着替えを行っている。希望者には足浴も行っている。	入浴回数や時間等は配慮できているが、ユニットバスという環境から、浴槽の出入りの介助が大変である。そのため、怖いと浴槽に入りがたらない方もいる。狭い洗い場にもかかわらず3人介助の例がある。	昇降リフトや適切な場所への手すりの配置など、環境を整える検討をしてほしい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活リズムに応じ居室で休息して頂いたり夜間帯眠れない方には日中の活動量を増やす等の対応をしている。夕方より不穏になり夜間帯不眠にならないようスタッフ寄り添いコミュニケーションを積極的に行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院受診や処方合わせでの記録をスタッフ全員が共有し服薬支援を行っている。誤薬は、身体の危険性が高いので、内服時や薬のセット時は必ずスタッフ2名にてダブルチェックし慎重に行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴や日常の会話より趣味や興味のあることを理解し出来ることを声掛けしながら行って頂き役割分担をしながらやりがいや喜びを感じていただき生活への活力にしていだけるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	食材の買い物は毎日行い、利用者と一緒に出掛けたり、個人の購入希望があれば買い物に出かけたりしている。天気の良い日などは回覧板回しに一緒に出掛けた。季節ごとのイベントに出掛けたり、季節を感じていただき気分転換を図っていただいている。	夏祭りには利用者にも浴衣や甚平を着ていただき、老健の花火大会に参加していた。また、近所でイナゴ取りをしている写真も掲示されており、外出を楽しんでいることが確認できた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	購入希望が本人からあった際、本人が移動販売やヤクルトさんから直接買い物したり、購入希望があったものを職員が代行して買い物してきて、本人に渡している。また、スタッフが付き添い、買い物に出かけることもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月、各担当スタッフが御家族への手紙で近況報告したり、行事等のお知らせをしている。また、年賀状や暑中見舞いの葉書を本人が直筆で書いたり、スタッフが代行して書いて出している。また、電話の希望があれば、本人が直接お話しできるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに、ひな人形や五月人形、七夕飾りなどを飾って、季節の演出をしたり、写真や絵、習字の作品を飾って、利用者の方が楽しめるようにしている。	共有空間の壁面に、入居者の写真をカラージュした大作が掲示されていた。どこにいるか家族の方も探しているとのこと。みんなの表情が生き生きとして、楽しい雰囲気が伝わってきた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂には、ソファが置いてあり、テレビを観ながら一人で過ごしたり、皆で談笑して過ごされたりしている。また、ジグソーパズルやゲーム、縫物をしたり、タオルたたみや食事の準備、食器拭きなどのお手伝いを出来るだけしていただけるように心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ご本人や家族の希望により、テレビや仏壇、冷蔵庫などを置いたり、家族の写真や誕生日の際のメッセージカードなどを飾り、思い出や馴染みの生活に浸れるようにしている。	自宅で使用していたなじみの家具を持ちこんだり、ベッドの配置を変えて使いやすく工夫していた。各部屋ごとに雰囲気が違い個性が感じられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各利用者個々の出来ることやわかることを、各スタッフが理解し、また、家族の方からの情報をもとに、料理や縫物、趣味などを積極的に行って頂けるようにしている。また、買い物や敬老会、バスハイク、近隣の各種イベントなどに参加している。		